



THE対談

中野秀和×外谷明日翔

今回は、やどうぼうしやGEKKOなどで同じチームになることが多い、ひで先生とあすか先生の対談です。実は、スタンツに入社したのが同じ年で、1年目は2歳児クラスの担任を勤め、2年目はGEKKOや野童と一緒に活動をしていました。今回はそんな“似た境遇コンビ”が「スタンツアフタースクール」について対談します。どうぞお楽しみくださいませ！

中野 今さらですが、僕たちってスタンツのアフタークラスでよく一緒に活動していますよね。思い返してみると、お互い1年目から似た環境の中で過ごしてきましたね(笑)

外谷 ほんとだ！お互いに何か印象に残っていることはありますか？

中野 1年目のOPクラス(2歳児)の担任をしていた時かな。あすか先生が子どもたちと全力で遊ぶ女性の先生で、素敵だなと思いました。あすか先生は何が印象に残っていますか？

外谷 私は、昨年のGEKKOでのヤモリ探しです！高い木の上に「ヤモリがいるかも」と、ひで先生に土台になってもらったことがありましたよね。

中野 懐かしいっ！そういえばあったね。みんなでとってもはしゃいだ覚えがある！(笑)GEKKOは、普段のスタンツとはひと味違った楽しみがあるから好きな教室だなあ。

外谷 GEKKOでは縦割りクラスでの活動を行っていますよね。夕方の時間に他学年のお友だちと遊び、1年間をともに過ごしましたね。「遊びハンティング」をモットーに、ドジョウつかみやソリ遊びを楽しみました！

中野 そうだね！夕方の自然遊びだから、日常では珍しい環境の中で子どもたちのワクワク感も倍増だよな。ヘッドライトを使った冬のナイトハイクは、僕たちも探検隊気分楽しんでたなあ。

外谷 それに縦割りクラスだからこそ、それぞれの学年ごとの役割を、子どもたちが積極的にやろうとしている場面もありましたよね。

中野 子ども同士での関わりを見ているとほっこりすることもたくさんあるよね！今年も、季節に合わせた活動でたくさん遊びましたね。僕たち個性あふれる愉快な先生たちは、みんなと遊ぶことを楽しみにしていますので、これからもぜひよろしくお願いします！今年度から始まった『やどうぼうし』もご紹介しますか！

外谷 はい！やどうぼうしの活動がスタートしてから半年以上が経ちましたが、クラスの子たちのキャンプスキルの成長が目に見えて実感できるようになってきましたね。

中野 たしかに！はじめは火おこしができなかった子もいたけれど、少しずつコツを身に付けてキャンプ道具を使えるようになってきているよね！

外谷 中には、火おこしの時に悔しくて泣けちゃう子もいるんですけど、それでもくじけず懸命に頑張る姿を見ていると、応援したくなっちゃいますね。

中野 そこを乗り越えて火を点けられた時の達成感はとても大きいし、次の活動への自信につながっていくと思う！キャンプを通して、こんなにも貴重な体験ができる機会があるって良いよね。そしてなにより、活動中のみんなの顔が輝いているよね！

外谷 間違いないですね！子どもたち一人ひとりが心の底から活動を楽しんでいることが、いきいきとした表情から伝わってきます。あと、マイキャンプグッズがあることでそこへの愛着も湧いて、物を大切に使う気持ちが芽生えますね。

中野 その通りです！ワクワクするようなイベントもあって、魅力いっぱい、楽しさ満載の教室です！2つの教室以外にも、『スポーツくらぶ』と『ドッジボールくらぶ』がありますね。どちらも子どもたちの気合いがすごい教室です。

外谷 本当に子どもたちの熱量がとてすごいですよ。どちらの教室も子どもたちの技術が高くて、見ている私たちも楽しいですよ！

中野 子どもたちにとっても、目標が目に見えて分かりやすいから、みんなの気持ちも同じ方向に向きやすいよね。それに、友だちと技術を磨き、高めあうことができる場所も魅力ですよ。

外谷 そうですね！一人ひとりの「頑張ろう」という気持ちが練習に出ていて、とても活気があふれていますよね。スポーツを通して、技術だけでなく、ルールや約束を守ることの大切さも覚えられ、心の面も成長できます。

中野 運動スキルを向上しつつ、心身ともに成長できるのはとても良いことですよ。今年度も残りわずかですが、どんどんスタンツアフタースクールが楽しく盛り上がるように、そしてアフタースクールの知名度が上がるように、一緒に頑張っていきましょう！

外谷 オッケーです！よろしくお願いします！



あすか先生がヤモリを捕まえるために土台となるひで先生



あすか先生とひで先生の対談風景

星野先生が

子どもの「今」を見つめる

『会って、話すこと』



師走。足早と時は流れて、年の瀬が近くなってきました。私事になりますが、巣ごもりの期間も続き、読書がより習慣化しました。現在、書店にいくと、『人との関係』役立つ会話術『話し方が9割』など、現在の世相が伺えるラインナップが並びます。

そんな並びの中で、『会って、話すこと。』(田中泰延著)という書籍が目がひかれます。「会って、話すこと」現在、私自身も対策を講じながら、子どもたちと実際に会って、行動を共にしています。それ自体を当たり前のことと捉えればそれまでですが、この書籍を手にとった時、「会って、話すこと」とはどういうことなのか、改めて考える機会を得ました。

書籍の内容としては、シンプルに「人と会う」「環境に目を向ける」というモノでした。まず、お互いについて話すだけであるならば、「人と会う」必要はないのかもしれませんが、それは、電話やZoom、LINEで事が足りることで、では、「人と会う」そして「環境に目を向ける」ことにどんな意味があるのか。それは例えば、子どもたちと森に行き、ドングリを見つけて「いっぱい落ちてー♪」「大きくて丸いね!」「ツルツルしているよ!」と、思いを伝えあうこと。つまり、環境に目を向けてその事象と一緒に体験することです。こうした体験の中では、お互いがその事象に対する「知見」を持っています。私

は、子どもたちに自然に関する知識や感じることを教育の観点を含めて話をする。子どもたちは、私にドングリについての感想を伝える。お互いが一緒に見ている、感じている事象に対して「私はこう思う」「あなたはこう思う?」と、物事を考えていく。それが「会って、話すこと」なのです。このように実際の授業を通して、子どもたちと一緒に「考えること」に取り組む。それが、私たちの教育であり、私たち講師のあるべき姿だと再認識をしました。子どもたちに会える「今」を大切に、今後とも二人三脚で取り組んで参ります。

梶木が
思う!

「遊び」と「学び」は一对!



2021年も、子どもたちのたくさんの成長を感じる1年となりました。最近の話ですと、11月末に終えた中学生の2学期期末テスト。テスト前になると毎日塾にきて、土日には長いときで朝9時から夜11時まで勉強漬け。みんな本当によく頑張っていました。中学3年生にとっては、2月に控えた私立高校入試を左右する、大きな意味のあるテスト。今まで見たことがないほど気合の入った姿を見て、子どもたちから強い想いを感じました。

良い結果を求めれば、いつも以上に子どもたちの焦りも大きくなります。テスト前日はまるで入試本番の前日のような様子でした。勉強に限らずですが、努力は重ねれば重ねるほど不安は大きくなっていくものです。そこまでしっかりやりきったということだけで、私には文句の付けようがありません。成績が大事なのももちろんですが、自分のやるべきこととしっかり向き合い、テスト勉強に取り組む姿は本当にかっこよかったです。

その3年生の姿を見て、1・2年生も負けなぐらいに必死になって勉強と向き合っていました。中学生になって初めの頃は、どちらかと言えばやらされていた勉強が、今では足りないことを補おうと、自ら進んで勉強に取り組む姿が見られるようになりました。

成長を促す一番の要因は、本人の意思にあると思います。そしてその意思に火をつけるのが我々の役目だと、このテスト期間を通じて改めて実感しました。勉強ををわかりやすく教えるということはもちろんですが、それ以上に「梶木先生となら頑張れる」と感じてもらえるような先生を目指していきたいなと思います。



和田
が遊びで育む

ココロとカラダ



【話をきく】

このタイトルから思い浮かぶ“きく”について、どの漢字が思い浮かびますか?

私たちは、人との関わりの中で様々なコミュニケーションを交わします。その中の1つが会話。日常の何気ない会話を含めると、たくさんの会話をしていることに気が付くと思います

会話の内容に納得ができず、第三者に相談をして振り返ってみると、質問から始めていた会話がいつの間にか「自分の意見を押し付けていた」ということがあります。例えば「それって、○○なんじゃないの?○○でしょ。」と決めつけたように発言をしてしまった。そうすると相手が「そうじゃなくて…」と本当の想いを伝えづらくなってしまわないでしょうか。

子どもが本当のことを言ってくれない、自分から話をしてくれないなど、悩んでしまうことはありませんか?情報が欲しいから、教えて教えて、私はこう思っているんだよ、の姿勢で攻めてしまうとなかなか進展しないことがあると思います。そんな時、次の3つのように、相手の話をきくことを意識してみてください。

- 聞く力 …… 相手の話に耳を傾けること
- 聴く力 …… 相手の心に耳を傾けること
- 訊く力 …… 相手の話題をより深めること

そして、効果的な3つのきき方。

- 笑顔 …… 相手が話しやすい環境をつくる。
- 相槌 …… 相手がもっと話したいと思えるようになる。
- うなづき …… 相手が聞いてもらっていると実感できる。

これらを意識して話をきくことで、自分の心が開いていることが相手に伝わり、相手も心を開きやすくなると思います。普段の会話に意識をして取り入れてみてはいかがでしょうか。

スタンツ小学校からの お知らせ



2022年度スタンツ小学校についてお知らせです!

2021年も残り僅かとなりましたね。今年1年を振り返るといかがでしたでしょうか。個人的には、スタンツ小学校のパワーアップに伴い、スタンツ小学校に専任したことが大きな変化となりました。新しく始まった平日プログラムや、日曜日プログラムの拡大により多くの方々に関わることができました。来年にはスタンツ小学校が開講して3年目となります。さらに盛り上げていこうということで、試行を重ねようやく来年度の概要がまとまりました。

現行クラスは引き続き行い、火曜日に高学年向けキャンプ教室、金曜日にやどろぼうし小学生版を新たに開講予定です。また、今年度好評いただきましたYCCにつきましても、募集人数を増員する予定です。詳細につきましては、年内にはお出しできると思いますので、そちらをご確認ください。

スタンツ小学校は、習い事の位置付けになりますが、我々講師としては、第三の居場所「サードプレイス」として子どもたちと関わっていきたいと思っています。学校での悩み、楽しかったことや嬉しかったこと、お友だちや自分の親には話せないことでも何気ない会話からキッカケを作ってあげられるような関係性を築いていきたいと考えています。スタンツで培った子どもたちとの関係や、先生との距離感を活かしつつ、子どもたちにとって安心できる場を提供し続けることが我々の使命だと思っています。

皆様と一緒に子どもたちの未来に関わることを楽しみにしています。

